

フィールドスタディー(古墳と国造と郡司)

平成28年度大東文化大学春期オープンカレッジ(東松山キャンパス)

古墳と国造と郡司

—考古資料と古代史料の接点を学ぶ—

<フィールドスタディー>

引率講師：坂本 和俊 先生(講座講師)

☆日時 平成28年7月2日(土) ※雨天決行

》 集合場所
◎第一集合地 東松山キャンパス・管理棟前駐車場9:00集合
◎第二集合地 東上線高坂駅西口朝日興産前9:10集合
※フィールドスタディーの参加・不参加、及び集合地を6月25日(土)まで
にご提出ください。
(当日不参加になった場合は必ずセンターにご連絡ください。)

》 日 程(予定) 9:00東松山キャンパス出発→9:10高坂駅出発→(佐野SA休憩)→那珂川町なす風土記の丘資料館(昼食)→那須官衙遺跡→上侍塚古墳(車窓見学)
→下侍塚古墳・大田原市なす風土記の丘資料館湯津上館→那須国造碑(笠石神社)
→(羽生PA休憩)→高坂駅→大東文化大学東松山キャンパス(解散)

※集合地で拝観料(那須国造碑)300円を集金します。お釣りのないよう
にお持ちください。

※道路状況ほかにより到着時間が予定時間通り行かない場合があります。予め
ご了承ください。

※当日はお弁当・レジャーシートをご持参ください。

》 同 行 広沢 晶子、加藤 たづる(地域連携センター)

》 観光バス 東栄自動車

那珂川町なす風土記の丘資料館

ここが那珂川町なす風土記の丘資料館小川館



なす風土記の丘資料館小川館 常設展示案内

4 新しい政治と地方の文化

那須郡概の概要やその役割、また律令制下の那須の産業を紹介します。



5 都への道・東山道

那須烏山市で見つかった東山道の調査に基づいて、東山道の意義や那須との関わりについて解説します。



3 古墳の終末と仏教文化

終末期の古墳の様子と仏教文化について、那須の新しい動きの背景を探ります。



なす風土記の丘資料館 小川館

那須の縄文時代から奈良・平安時代にわたり5つのテーマをとりあげ、なすの古代文化を紹介しています。是非、ご覧ください。

開館時間 9:30~17:00

入館料 一般 100円 (80円)
学生・生徒 50円 (40円)
小中学生は無料
☆ () 内は20名以上の団体料金

休館日 月曜日、祝日の翌日



1 那須の縄文人

那須の縄文人の生活と他地域との交流について紹介します。



2 巨大墳墓の時代

那須の古墳文化の特色を他地域と比較しながら解説します。



那須官衙遺跡

小川館付近から東方向を見たところで、この辺り一帯が那須官衙遺跡



正面が正倉跡/標柱や説明板が立っている





東側から西方向を見たところ



正庁跡（正倉跡）

この場所は黒色土と黄色土を交互に突き固めて周囲より一段高く構築されています。ここ（基壇）に建てられた建物は桁行六間約二七m（九〇尺）×梁行二間約九m（三〇尺）の瓦葺礎石建物です。建物跡の周辺より出土した瓦には赤色顔料が帯状に付着していたことから、建物の柱と軒は赤く塗られていたと考えられます。また、瓦の特徴からこの建物が八世紀中頃には建てられていたことがわかっています。

この建物は赤く塗られた瓦葺礎石建物であることから、発見の当初は正庁跡と考えられていました。しかし、正倉跡という説も出され、長い間論争となっていました。その後の発掘調査により、この瓦葺建物のまわりにも倉と考えられる建物群が多数確認されたことから、現在では正倉跡であると考えられています。

なお、一〇世紀代にはこの瓦葺建物は倒壊し、同じ基壇上に五間×二間の側柱式掘立柱建物が建てられたと推定されています。

那珂川町教育委員会

南側から北方向を見たところ/草で見え隠れしているが礎石が残っている



A地点がこの正倉跡



那須官衙遺跡は、昭和42年土地改良に伴う事前の発掘調査で確認された古代那須郡の郡役所跡です。耕作土の下から50棟を超える建物跡が規則的に並んで出土し、それらを区画する堀跡も確認されたことから西の原用水の西側を中心に約5,000㎡が昭和51年に国指定史跡となりました。

建物の多くは掘立柱式でしたが、地固めをした礎石式の建物もあり、何回も建て替えられていることも分かりました。最も大きい建物跡は正面約27m(6間)、側面約9m(2間)で礎石を使い瓦葺きで、柱間(柱と柱の間)は各々約4.5m(15尺)もありました(A地点)

屋根に瓦を葺いた建物はこの1棟だけで、しかも朱塗りであったことなどから郡役所の中では重要な役目をもった建物でした。この建物の東方(B地点)や北方(C地点)にも礎石を使った倉庫が建っていました。B地点の梅林の中には原位置を保つ礎石もあり、C地点付近からは「銅印」(国指定重要文化財)が出土しています。

上面幅約4m・深さ1.3mの堀に囲まれた東西約210m・南北約210mの内側は郡役所の倉庫院と推定され、郡役所跡の全体はさらに西の原用水の東側に大きく広がっています。

北側から南方向を見たところ/右手が正倉跡



その右手を見たところ



左手を見たところ/こちらはB地点で、正面の梅林のところに原位置を保つ礎石がある



この基壇がその梅林/右手に説明坂が立っている



礎石が残っている



梅林基壇

この基壇は梅の木が植えられていることから梅林基壇と名付けられました。現在もほぼ当初の位置と考えられる場所に数個の礎石が残っています。このあたり一帯は那須郡の役所跡として確認されるまで、寺の塔跡ではないかと考えられていました。

発掘調査の結果、基壇は南北約一四m、東西約一mの長方形で黒色土や黄色土、川原石などで堅く突き固められて造られたことがわかりました。また、礎石の配置から桁行四間一〇・九m（柱間九尺）×梁行三間六・九m（柱間約八尺）の南北棟の総柱式礎石建物であることも明らかとなりました。基壇中より出土した土師器から九世紀以降の造営と考えられます。

さらに、この基壇の下には、八世紀代で二時期的の掘立柱建物跡が確認でき、これらの建物を建替えて礎石建物としたと考えられます。

那珂川町教育委員会

大田原市なす風土記の丘資料館湯津上館

ここは大田原市なす風土記の丘資料館湯津上館



上侍塚古墳

車窓から見た上侍塚古墳/西側から見たところ



江戸時代に水戸藩主徳川光圀の命で、那須国造碑の碑文内容と侍塚の被葬者との関連を探るために発掘調査が行われたという

国指定史跡

上侍塚古墳

上侍塚古墳は、那珂川右岸の段丘上に位置する前方後方墳で、那須地方に分布する6基の前方後方墳のなかでは最大規模を誇る。

本墳は、元禄5年(1692)、徳川光圀の命により小口村(那珂川町小口)の庄屋であった大金重貞らによつて、下侍塚古墳とともに発掘調査されている。北方1.5kmで発見された那須国造碑の碑文内容と侍塚の被葬者との関連を探るため行なわれたもので、日本における最初の学術調査として特筆される。

鏡(捩文鏡か)・鉄鏃・石釧・小札・鉄刀片・管玉土師器高坏などが出土したが、碑文との関連は明確にならず、遺物は絵図にとるなど調査結果を記録したうえ松板の箱に収め、もとの位置に埋め戻した。また調査後は、墳丘の崩落を防ぐために松を植えるなどを行っており、遺跡の保存に関しても、見事な処置を実施している。

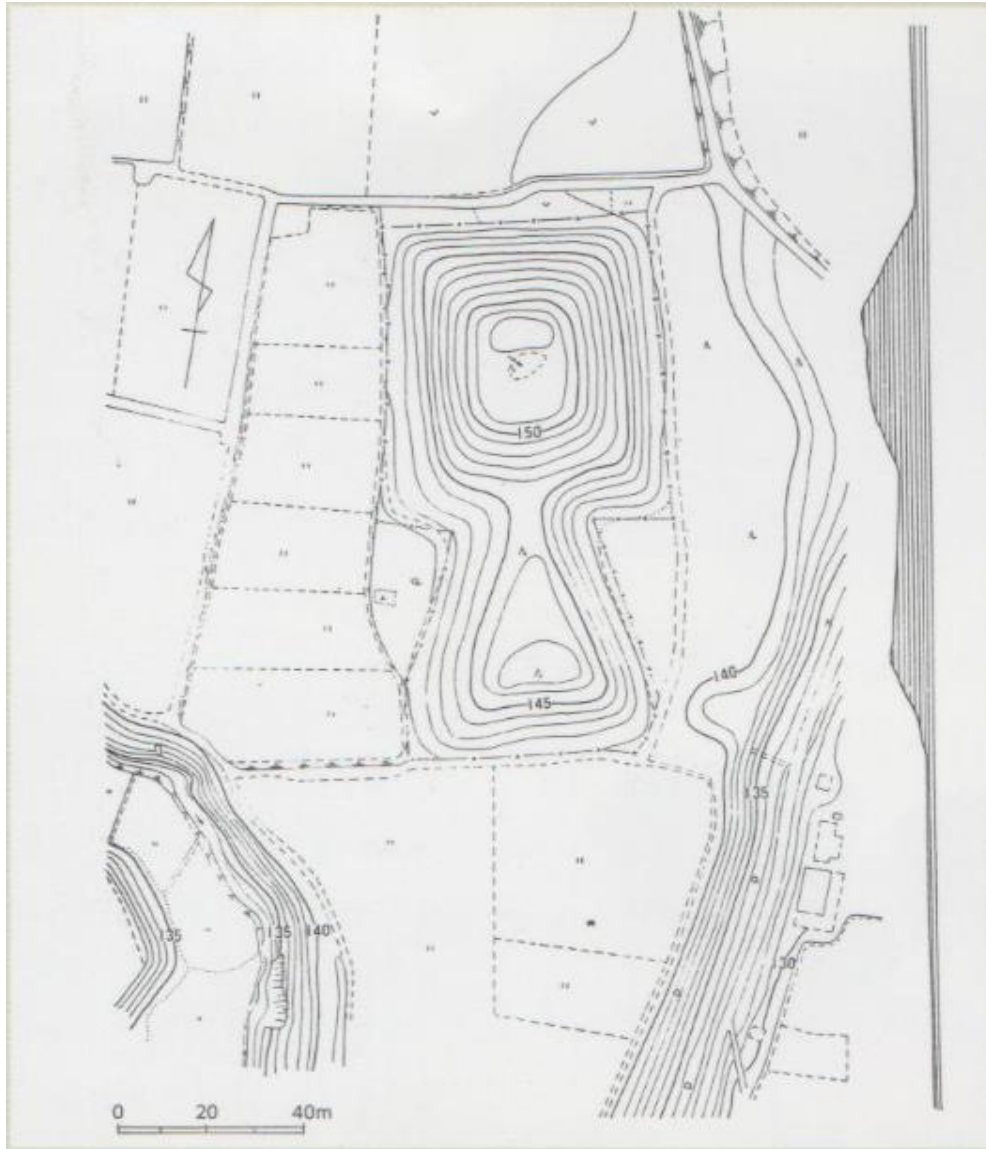
古墳の築造は、出土遺物や墳形の特徴などから4世紀末頃(古墳時代前期)と考えられている。

なお、本墳のすぐ北側には、全長約48.5mの前方後方墳、上侍塚北古墳がある。

(昭和26年6月9日 国指定)

| | | | | | |
|-----|----------|----|---------|----|--|
| 墳形 | 前方後方墳 | 全長 | 約114.0m | | |
| 後方部 | 長さ 60.5m | 幅 | 約58.0m | 高さ | |
| 前方部 | 長さ 53.5m | 幅 | 約52.0m | 高さ | |





大田原市なす風土記の丘湯津上資料館パンフレットより

上侍塚北古墳

車窓から見た上侍塚北古墳/前方後方墳/4世紀末の築造か/左手が後方部、右手が前方部/西側から見たところ



下侍塚古墳

正面左手は津上館近くにある下侍塚古墳/右手奥には侍塚古墳群が見えている



西側から見た下侍塚古墳/左手が後方部、右手が前方部



元禄5年(1692年)に水戸藩主徳川光圀の命により、日本で最初に本格的な発掘調査が行われた古墳としても知られている

国指定史跡

下侍塚古墳

下侍塚古墳は、那珂川右岸の段丘上に位置する前方後方墳で、那須地方の6基の前方後方墳のなかでは上侍塚古墳に次ぐ規模である。

本墳は、元禄5年(1692)、徳川光圀の命により小口村(那珂川町小口)の庄屋であった大金重貞らが上侍塚古墳とともに発掘調査を行なっている。鏡・鎧片・鉄刀片・大刀柄頭・土師器壺・同高坏などが出土したが、これらは、絵図にとるなど調査結果を記録したうえで松板の箱に収め、埋め戻している。

さらに墳丘の崩落を防ぐために松を植えるなどの保存整備も行なわれた。これら調査と調査後の遺跡の処置は、日本考古学史上特筆されるものである。

昭和50年には土地改良事業にともなう周濠調査が湯津上村教育委員会により行なわれた。その結果、古墳の規模、周濠の形状や葺石などが確認され、墳丘から崩落したと考えられる土師器壺などが出土している。

古墳の築造は、出土遺物や墳形の特徴などから4世紀末頃(古墳時代前期)と考えられている。

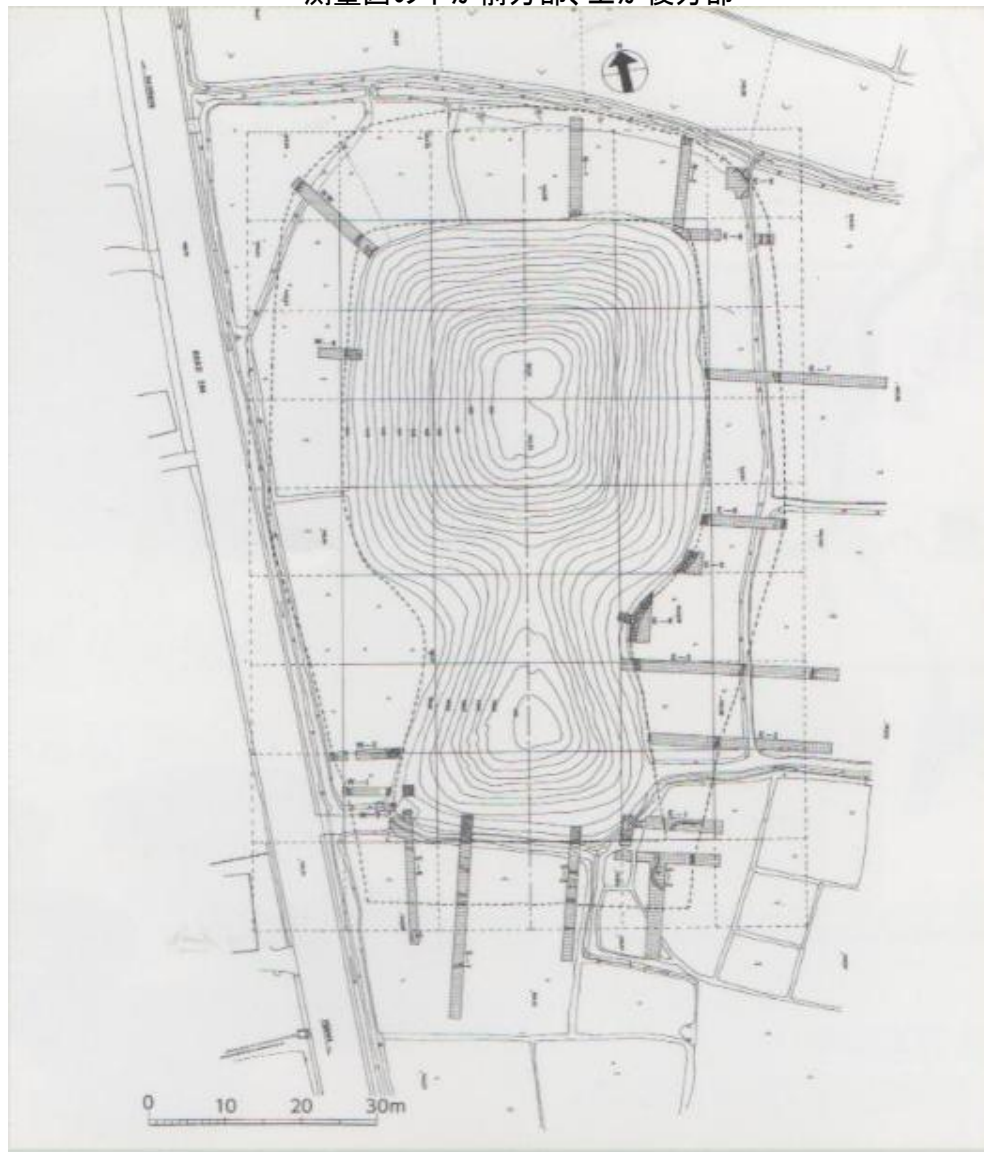
(昭和26年6月9日 国指定)

| | | | |
|-----|----------|----|-------|
| 墳形 | 前方後方墳 | 全長 | 84.0m |
| 後方部 | 長さ 48.0m | 幅 | 48.0m |
| 前方部 | 長さ 36.0m | 幅 | 36.0m |
| | | 高さ | 9.4m |
| | | 高さ | 5.0m |



大田原市教育委員会

測量図の下が前方部、上が後方部



大田原市なす風土記の丘湯津上資料館パンフレットより

侍塚古墳群

下侍塚古墳の北東側に侍塚古墳群が展開する/説明板が立っている/右手から8号墳、6号墳、5号墳が見えている



大田原市指定史跡

侍塚古墳群のご案内

昭和41年2月15日指定
大田原市湯津上地内

下侍塚古墳のすぐ北側には侍塚古墳群と呼ばれる古墳群が展開しています。現在確認できるのは8基ですが、かつては10基ほど存在したものの戦後の開田等により、消滅したといわれています。

前方後円墳である1号墳、方墳である8号墳を除く6基は円墳とみられています。5号墳と8号墳については、部分的な発掘調査によって、ある程度古墳の状況が把握されています。

それ以外の古墳については、平成10年(1998)から平成13年(2001)にかけて、墳丘の測量調査が行われ、墳形と大きさが確認されています。

大田原市教育委員会



古墳群位置図



1号墳/南西側から見たところ



前方後円墳で左手が後円部、右手が前方部/西側から見たところ



後円部に近づいて見たところ



北東側から見たところで、正面が後円部、左奥が前方部



正面前方は2号墳



アップで見たところ/円墳



正面やや右手に4号墳、やや左手に3号墳がある



これが3号墳/円墳/南西側から見たところ



こちらは4号墳/田墳/西側から見たところ



東側から見たところ



左手から5号墳、6号墳、7号墳/南側から見たところ



5号墳/円墳/東側から見たところ



前方は6号墳/北側から見たところ



近づいて見たところ/円墳



正面は7号墳/西側から見たところ



アップで見たところ/円墳



これは8号墳/方墳/東側から見たところ



そこから下侍塚古墳を見たところ/正面が後方部、左奥が前方部/北東側から見たところ



那須国造碑

ここは笠石神社



国宝 那須国造碑

昭和二十七年十二月二十二日 指定



総高 一四八センチメートル

石材 花崗岩

この碑は、西暦七〇〇年頃に、なすのくにのみやつこ那須国造であつたなすのみたいで那須直章提の遺徳をたたえるため、その息子と思われるおしまろ意斯麻呂らによつて建立された碑です。文字の刻まれた碑の上に笠状の石を載せた特異な形をしていることから、この地域では「笠石さま」として親まれています。

碑には、八行に各十九字ずつの計百五十二字が刻まれており、その書体には中国の六朝時代りくちゆうの書風が感じられます。また、碑文冒頭には「永昌」という唐の則天武后そくてんぶこうの時代に使用された年号が用いられているなど、その当時に大陸や半島から渡来してきた人々の影響が色濃く残されています。

この碑の保存には、江戸時代の水戸藩主みと、徳川光圀とくがわみつくにも関わっています。長い間倒れ埋もれていたこの碑を、磐城の僧こくち（田順）が発見し、小口村梅平おのがねしげさだ（現那珂川町）の名主、大金重貞おほかねしげさだに話し、それが、徳川光圀へ伝えられました。そして、この碑が貴重なものであることがわかったことから、元禄四年げんろく（一六九一）碑堂を建て碑を安置しました。これが、現在の笠石神社となっています。

なお、多賀城碑たがじょう（宮城県）・多胡碑たご（群馬県）とともに日本三古碑として知られています。

ここで神主さんが那須国造碑について説明してくれる



さて、いよいよ那須国造碑を見学する



順番に中を覗いて那須国造碑を見ているところ



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/ootawara_ksamurai/

http://kofunnomori.web.fc2.com/tochigi/otawara/samu_kami.htm

<http://www42.atpages.jp/nukatanootama/page055.html>

<http://obito1.web.fc2.com/ootawara.html>

<http://jibusyouyuu.sekigaharablog.com/Entry/64/>

<http://www42.atpages.jp/nukatanootama/page122.html>

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/ootawara_ssamurai/

http://kofunnomori.web.fc2.com/tochigi/otawara/samu_simo.htm

<http://blog.goo.ne.jp/ttmida/e/9521719bfc4de5abffc7bae2377391b4>

<http://www.powaru358.com/shimosamuraizuka.html>

<http://blogs.yahoo.co.jp/anmituhime14/46930047.html>

<http://www42.atpages.jp/nukatanootama/page033.html>

<http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/137874>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/shimotsuke/nasu-kanga/>

<http://kofunnomori.web.fc2.com/tochigi/nakagawa/kanga.htm>

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/bunkazai/1341019.htm>

<http://beccan.blog56.fc2.com/blog-entry-1329.html>

<http://nasudesign.exblog.jp/4668862>

<http://loungecafe2004.com/photo/2013/06/12-212119>



上侍塚古墳



下侍塚古墳

